

[成果情報名] 新疆ウイグル自治区における地元行政主導の定住牧畜民への技術支援対策

[要約] 中国・新疆ウイグル自治区において推進されている牧畜民の定住事業に関し、地元行政関係者の役割を重視した定住後の牧畜民への総合的かつ体系的な技術支援上の留意点と、パイロットプロジェクトで得られた技術的知見を、現地の技術支援担当者や牧畜民が利用できるよう中国語ガイドライン並びに中国語及びカザフ語の技術マニュアルとして取りまとめたものである。

[キーワード] 中国、新疆ウイグル自治区、牧畜民定住

[所属] 国際農林水産業研究センター 農村開発領域

[分類] 行政 A (主要普及成果)

[背景・ねらい]

新疆ウイグル自治区政府は退化が著しい冬牧場への負荷を軽減するために、冬季の畜舎飼育と夏季の天然草地利用を組み合わせた禁牧・休牧措置を拡大する施策を立て、牧畜民の定住化を進めることにより、新しい営農の構築による生活の安定と天然草地の保護・回復を図ろうとしている。しかしながら、定住後の牧畜民は飼料栽培や畜舎飼育などの農牧業の経験がない上に、彼らに対する技術指導についても、往々にして県からその下の行政組織である郷へ、さらに村の牧畜民へと上意下達、縦割りの指導が行われており、必ずしも十分な効果を上げていない状況にある。こうしたことから、牧畜民が定住開始後出来るだけ早期に安定経営に移行できるよう、村の開発戦略を策定した上で、それに基づく総合的、体系的な技術支援を行っていくモデルを提示する必要に迫られている。

[成果の内容・特徴]

1. プロジェクト活動の前半では、定住村のインフラ整備や定住牧畜民への技術指導において、郷政府が主要な役割を果たすことを確認した。そして、後半の活動では郷政府の幹部と郷政府に配置されている分野別技術普及担当員の相互連携の強化と能力の向上を図るため、個別指導や牧畜民への技術指導時の OJT(on the job training)を実践し、郷政府の地域マネジメント能力を高めた(図 1)。
2. 本成果は、そうした取り組みにおいて得られた知見とパイロットプロジェクトにおいて生じた技術的課題について、ガイドライン(中国語)及び各分野別の技術マニュアル(中国語)として取りまとめたものである。いずれも図表あるいは写真を取り入れ視覚的に訴える形態で、ターゲットの郷関係者が理解しやすいよう配慮している(図 2、図 3)。
3. ガイドライン「定住牧畜民の安定経営に向けた指導読本」については、定住牧畜民への技術支援に携わる人々が幅広い横断的知識を得ることを目指し、定住事業の指導者と新人の行政担当者が対話しながら、定住後の歳月に伴って生じる課題についてどのように対処すべきか、そのヒントを示す読み物形式としている。
4. 栽培及び家畜飼養分野の技術マニュアルについては、中国語の図書の読解が困難なカザフ族牧畜民への研修教材としても活用できるようカザフ語版も作成している。

[成果の活用面・留意点]

1. 自治区政府の牧畜民定住化の政策は、2つのモデル村の周辺地域で新しい定住村が建設されるなど今後さらに加速される予定であり、本プロジェクト成果を普及するニーズは非常に高い。
2. 2つのモデル村でのパイロットプロジェクトの管理・運営に携わった地元市・県の科学技術局では、既にプロジェクト成果を用いた普及計画を策定している。
3. 本成果は、JICA からの受託事業の実施によって得られた成果である。

[具体的データ]

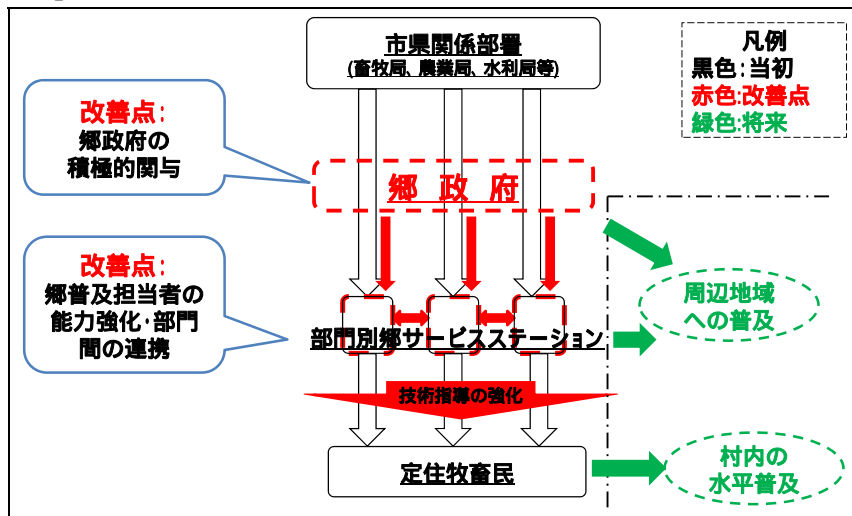


図1 牧畜民技術支援における郷政府及び郷普及担当部門の役割強化

A 先生(今まで牧畜民の定住に深く関わってきた経験者)
過去に色々な失敗も経験してきた。
「定住村はそれぞれの村が置かれている状況が異なり、どこでも同じ方法で進めれば同じ成果が出ることはない。それぞれの村ごとに柔軟な対応ができる人材を育てることが、成功の秘訣である。」という考えを強く持っている。

B 担当者(とある県政府の担当者)
大学で農牧業や定住政策の事は学んできたが、現場経験はほとんどない。担当地区の郷政府の幹部や技術普及員にどのような指導・助言をすれば良いのか、手探り状態でやっている。

図2 ガイドライン「定住牧畜民の安定経営に向けた指導読本」の登場人物

技術マニュアルの内容

1. 草地管理
2. 飼料作物栽培
 - 2-1. アルファルファ栽培と利用手引き
 - 2-2. サイレージ用トウモロコシの栽培と利用手引き
 - 2-3. 完熟堆肥のつくり方手引き
 - 2-4. アンモニア(尿素)処理の手引き
3. 乳牛の飼育管理
4. 経営、販売、家計管理
5. 水利用 - 節水・塩害・水管理-
6. ナチュラルチーズ製造の概要

図3 技術マニュアルの内容

[その他]

研究課題：新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト(新疆定住プロ)

中課題番号：開発途上地域の土壌、水、生物資源等の持続的な管理技術の開発

予算区分：独立行政法人受託調査費(JICA)

研究期間：2012 年度 (2007 ~ 2012 年度)

研究担当者：伊賀啓文・大森圭祐・羽佐田勝美・小林勤・丸本充・千葉精一(依頼出張)

発表論文等：伊賀啓文ほか，“定住牧畜民の安定経営に向けた指導読本(和・中)”、“技術マニュアル(和・中・カザフ語)”，中華人民共和国新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト 成果報告書,2013, (JICA 図書館ウェブサイト掲載予定)